

市民意見の募集結果

小田原市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則等の一部を改正する規則の素案に対する市民意見の募集結果について

1 意見募集の概要

政策等の題名	小田原市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則等の一部を改正する規則
政策等の案の公表の日	令和2年6月5日（金）
意見提出期間	令和2年6月5日（金）から令和2年6月24日（水）まで
市民への周知方法	意見募集要項の配布（市内公共施設、ホームページ）

2 結果の概要

提出された意見は、次のとおりです。

意見数（意見提出者数）	27件（11人）
インターネット	10人
ファクシミリ	人
郵送	1人
直接持参	人
無効な意見提出	2人

3 提出意見の内容

パブリックコメントで提出された意見の内容とそれに対する市の考え方は、次のとおりです。

〈総括表〉

区分	意見の考慮の結果	件数
A	意見を踏まえ、政策等に反映したもの	0
B	意見の趣旨が既に政策等に反映されているもの	2
C	今後の検討のために参考とするもの	16
D	その他（質問など）	9

〈具体的な内容〉

(1) 夏季休業期間の変更に関すること。

	意見の内容 (要旨)	区分	市の考え方 (政策案との差異を含む。)
1	学習時間の確保について不安があるため、夏季休業を8月1日から23日までとした根拠を知りたい。	D	臨時休業中に予定していた学習内容については、令和2年度中に履修できるよう教育課程を再編成して取り組んでいきます。時間割編成の工夫や学校行事の見直しなど授業時数を確保することにより、夏季休業期間を約3週間としたものです。
2	夏季休業期間をもっと短くしてほしい。	C	(1) 1をご参照ください。
3	他市と比べると夏季休業期間が長いと思われるが、他市と同程度にすべきではないか。	C	(1) 1をご参照ください。
4	学習時間確保のため、夏季休業期間を短縮することを求めます。	C	(1) 1をご参照ください。
5	小田原市では、夏休みを3週間確保しても近隣市町村と変わらない学力保障の対策を知りたい。	D	(1) 1をご参照ください。
6	夏休みを3週間とした根拠を知りたい。	D	(1) 1をご参照ください。
7	学習時間を確保するために夏季休暇を短くすることには賛成です。	B	ご意見の趣旨は反映しています。
8	授業日数確保のために休日を授業に充てることは理解できますし賛成です。	B	ご意見の趣旨は反映しています。
9	現状では、1日当たりの学習時間が長くなり集中力が持たない上、急激な学習内容のスピードアップで疲労感やストレスがある。1日の授業時間数を段階的に増やして、徐々に環境に慣れてもらいたいので、夏季休	C	6月1日の学校再開から2週間の間に分散登校を行うなど、長期にわたった休業期間の影響を考慮した上で、児童・生徒が生活のリズムを整え、安心して学校生活を送ることができるよう努めています。また教育課程の再編成により児童・生徒に過度の負担が掛かることのないよう配慮します。夏季休業期間の短縮については、(1) 1を

	業の更なる短縮を希望する。		ご参照ください。
10	新型コロナウイルスのことを考えるなら、夏にしっかり授業を行い、コロナの蔓延や流行のおそれのある冬の再度の学級閉鎖などに備えるのが、今後のコロナと共存する生活には向いていると思う。	C	懸念されている新型コロナウイルス感染症の第2波などに対しては、ICTを活用した教育環境の整備を早期に進め、対応していきたいと考えています。
11	授業時数が不足するのなら、土曜日登校の検討が必要ではないか。	C	児童・生徒の健康への配慮や、家庭や地域での活動（習い事等を含む。）への影響等を考慮して、土曜日は授業を行わないこととしました。

(2) 学習及び行事に関すること

	意見の内容（要旨）	区分	市の考え方（政策案との差異を含む。）
1	パブコメ素案の場合、休業期間の授業数をどのくらい補うことができ、不足分がどのくらいなのかを明確にして保護者にも伝えてもらいたい。	C	単に授業時数の過不足だけで捉えるのではなく、必要な学習内容を令和2年度中に履修できるよう、教育課程を再編成して取り組んでいきます。
2	夏季休業短縮により確保できる授業時間数を具体的に提示してほしい。	C	(2) 1 をご参照ください。
3	小・中学校の時期でなければ培うことができない協調性、集団行動といった行事がなくなり、詰め込みでの授業では子供も大変なので、ある程度の行事を実施してゆとりのある学校生活を送れることを希望する。	C	時間割編成の工夫や学校行事の見直しにより授業時数を確保しましたが、今後も学校行事の見直しは必要だと考えています。いわゆる「詰め込み」とならないよう児童・生徒に過度の負担が掛かることのないよう配慮します。
4	学校が再開になっても、勉強以外の活動がかなり制限されている。今後、どのよ	D	感染拡大防止を念頭において、行事の見直しは必要だと考えますが、実施内容や場所、時期を工夫してまいります。

	うなスケジュールと方法で行事等の再開を検討しているのか。		
5	分散登校の期間中、学校によって授業スタイルや授業時間が異なっており、同じ市内で差が開くのはおかしいと思う。1日の授業時間が今後長くなるのも子供にとってつらいと思う。	C	分散登校の期間中は、学校の規模等に応じて授業の実施方法を工夫しており、一律の授業時間とはなっていませんが、1年間を通じて必要な学習内容を履修できるよう各学校で教育課程を再編成して取り組んでいきます。
6	休業により、生徒間で学力差がつき、学力の開きがある中での授業は、効率的な進行並びに児童・生徒の学習意欲向上は難しいと感じている。中学生には、教科別学力別クラスの導入や、小学生には、学習サポートなどを実施すべき。	C	学習活動の重点化を図るとともに、児童・生徒が身に付けるべき学力や学習内容を全教職員が共通理解し、教育活動の質の充実を図ります。

(3) ICT教育環境整備に関すること

	意見の内容(要旨)	区分	市の考え方(政策案との差異を含む。)
1	新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業対応、動画を視聴できる環境の整備等をお願いします。	C	国のGIGAスクール構想を踏まえ、各学校のインターネット環境や児童・生徒1人1台の学習用端末を整備し、令和3年4月から運用する予定です。
2	登校への不安がある家庭もある中、登校選択制によってオンライン授業を選べる自治体もある。一番大事な命や平等な教育環境のために、休業時に限らず、今すぐにでもオンライン授業ができる環境整備を進めるべき。	C	学校におけるICT環境の整備については(3)1をご参照ください。 オンライン授業については、ICTの活用を進める中で今後検討していきます。

3	第2波への備えだけでなく、ICT環境を整えることでオンライン授業を行い、熱中症や感染のリスクを軽減するための環境整備を行うべき。	C	(3) 2をご参照ください。
---	--	---	----------------

(4) 環境衛生に関すること

	意見の内容 (要旨)	区分	市の考え方 (政策案との差異を含む。)
1	暑い時期に換気良く、密集せず、勉強できる環境整備をお願いしたい。	C	引き続き、できるだけ直接の身体接触や至近距離での会話等を行わないようにするとともに、エアコンを使用し適正な環境衛生を保ちつつ、換気も同時に行っていきます。
2	真夏の時期に登校させることに対して十分な熱中症対策をとることはできるのか。	D	マスクの着用は熱中症のリスクが高くなることから、登下校時においてもできるだけ身体的距離を保ちつつ、マスクを外すなどの熱中症への対応を優先します。

(5) 給食の実施に関すること

	意見の内容 (要旨)	区分	市の考え方 (政策案との差異を含む。)
1	祝日の登校で弁当を持参することは食中毒のリスクが高いので、給食の実施について再度検討すべき。	C	祝日の午後に授業を行うかどうかは、各学校の判断となっております。祝日に給食を実施することは困難です。

(6) 教職員の服務に関すること

	意見の内容 (要旨)	区分	市の考え方 (政策案との差異を含む。)
1	7月23日の海の日及び24日のスポーツの日を休業日としない場合の教職員の勤務体制はどうなるのか。	D	教職員の勤務については、原則として、休日の振替を行います。

(7) その他に関すること

	意見の内容（要旨）	区分	市の考え方（政策案との差異を含む。）
1	市立幼稚園の夏季休業については、小田原市立幼稚園の管理運営に関する規則第6条第2項により期間を変更することが可能であるのに、規則を改正するのはなぜか。	D	ご指摘のとおり、小中学校、幼稚園では校長又は園長が教育委員会の承認を得て休業期間を変更することができますが、今回は各学校、幼稚園の個別の理由によるものではなく新型コロナウイルス感染症対策として市内一斉に臨時休業としたことに伴う休業期間の変更であるため、規則改正で対応することとしました。
2	今後、小中学校や幼稚園を臨時休業とし、それに伴い休業日を変更する際には、その都度規則改正を行うのか。	D	今後、休業日の変更が必要となった場合には、その規模や期間等に応じて、規則改正により対応するかどうかを適切に判断します。
3	小田原市意見公募手続き条例には、意見提出期間は30日以上でなければならないとあるが、今回30日未満なのはなぜか。	D	新型コロナウイルス感染症対策のための政府の緊急事態宣言の解除を受け、緊急に対応する必要があること、及び制度を円滑に施行するため、一定の準備・周知期間を確保する必要があるため、期間を短縮して実施することとしました。